

令和2年度 大洗研究所防災訓練（11/10）における課題対応について

1. はじめに

令和2年11月10日に実施した大洗研究所防災訓練について、訓練結果（パンチリスト、訓練モニタのコメント等）を踏まえて課題を抽出し、対策の検討を行った。

【抽出した課題等】

No	抽出した課題	区分	対策
1	HTTR の EAL に番号がないため、説明している EAL 事象が理解しにくかった。	防災業務計画	・ EAL 番号に齟齬が生じないように考慮しながら、独自の EAL 番号を設定する。
2	個別の EAL については発生事象状況確認シートで発生状況について情報共有できるものの、発生している全ての EAL を網羅的に示した情報共有については実施されていない。	情報共有	・ EAL 一覧表を用いて現在発生している EAL について情報共有することを機構大でルール化する。
—	その他	—	—

2. 検討

<No. 1>

【問題点】

- ・ HTTRのEALに番号がないため、説明しているEAL事象が理解しにくかった。

【課題】

- ・ 事象の内容を名称化したEALで情報共有できるものの、EALに番号が付されていないため、理解しにくい。

【原因】

- ・ HTTR（試験研究用原子炉施設）のEALは、その特性が多様であることから実用発電炉とは異なり、JEAGが定めるEAL番号を導入できない。

【対策】

- ・ EAL番号に齟齬が生じないように考慮しながら、独自のEAL番号を設定する。

<No. 2>

【問題点】

- ・ 複数EALが発生している状況において、現在どのEALのフラグが立っているか理解しづらかった。

【課題】

- ・ 個別のEALについては発生事象状況確認シートで発生状況について情報共有できるものの、

発生している全てのEALを網羅的に示した情報共有については実施されていない。

【原因】

- ・発生しているEALの全体像について、機構内で共通認識を図るための実施方法が定まっていない。

【対策】

- ・複数EALが発生している状況では、ブリーフィングのタイミングなどで、災害対策資料内のEAL一覧表を用いて現在発生しているEALについて情報共有することを機構大でルール化する。

3. 「その他」に関する対策

(大洗研究所)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	通報連絡	通報連絡様式の「その他の事項の対応」欄に、別紙の一覧を記載していた。	前例を意識し、記載すべき内容への意識が薄かった。	別紙の一覧は、「発生事象と対応の概要」欄に記載することとする。
2	質問対応	大洗の ERC ブースにおいて、ERC からの質問に対し、的を射ない回答となってしまったものがあった。	回答内容をイメージせず説明を始めてしまい、途中で質問の内容を見失ってしまった。 書画装置を有効に活用していなかった。	回答内容がイメージできない場合は、考える時間を確保したり、周囲の者の協力を得て、イメージができてから回答する。 書画装置を積極的に使用する。
3	情報共有	音声会議システム使用时、発話が速く聞き取りづらい場面があった。	音声会議システムでは、発話者周辺の音も拾ってしまうため。	発話者とマイクの距離を調節するとともに、はっきり、ゆっくり発話することとし、その旨を音声会議システムに表示する。

(機構本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	ERC に対する“伝わる情報提供”という観点で改善の余地がある。 (情報が輻輳している場面において、書画装置で示した資料について回収しようとした際に ERC から暫く表示しておくよう指示されたり、複数の事項を「それからそれから」と連続で ERC へ発話したりした。)	ERC への速やかな情報提供に傾倒しすぎており、マニュアルに定める基本動作の一部が浸透できていない(発話者は新規対応者)。	次回訓練前に再度教育を行うとともに、落ち着いた対応ができるように、今後の訓練の中で練度を高めていく。
2	FAX 内容	大洗からの第 1 報事故トラブル情報 FAX について、複数施設のトラブル情報を纏めて記載したため分かりづらかった。	第 1 報事故トラブル情報 FAX について、複数施設でトラブルが発生した際の記載方法が定まっていなかった。	大洗とともに FAX 記載のルールについて検討する(発災施設毎に一葉にする等)。記載方法を機構大で統一して運用していく。

以上